

成果報告書

1 大学等名	広島経済大学	
2 教育研究活動	区分	⑥観光資源の共同開発・PR
	テーマ	地域ブランド商品の開発による観光地の賑わいづくり ―道の駅を中心とした6次産業化の推進
3 連携した市町	安芸太田町（広島県）・美郷町（島根県）	
4 連携した企業、団体等	安芸太田町・美郷町役場・安芸乃国酒造株式会社 ・文化産業創成グループ本郷 BASE・浜原茶業組合	
5 参加学生	広島経済大学（経営学部）13名 広島経済大学（経済学部）3名	
6 活動の内容	【2023年】	
	3月24日：道の駅来夢とごうちおよび安芸乃国酒造との顔合わせ	
	4月7日：美郷町役場にて町長および職員の方々からヒアリング	
	6月23日：本郷ベース、安芸乃国酒造、合同ミーティング	
8月25日：（安芸乃国酒造）クラフトビール製造実習		
8月26日・27日：またたび収穫、緑茶講座		
8月28日：クラフトビール製造実習		
8月29日・30日：ブルワリー工場見学、安芸乃国酒造による講座		
		
4/7 美郷町についてヒアリング		8/25 クラフトビールの製造実習
		
8/26・8/27 またたびの収穫体験		

9月28日：ラジオ出演（NHK 広島放送局）  
 9月30日・10月1日：グルメフェアに参加（来夢とごうち）  
 10月27日（安芸太田町）：製造実習  
 11月11日・12日（美郷町）：産業祭に参加、クラフトビール販売  
 12月23日・24日：クラフトビール販売（広島三越）

**【2024年】**

2月9日：広島広域都市圏協議会での報告会



9/28 ラジオ出演（NHK 広島放送局）



9/30・10/1 クラフトビールの説明とアンケート調査



11/11・11/12 産業祭でビール販売  
（美郷町）



12/23・12/24 クラフトビール販売（広島三越）

**7 活動効果**

本事業では安芸太田町、美郷町におけるヒアリング調査を実施し、両町の地域活性化施策として、クラフトビールの企画提案を行った。特に、原材料の1つでもある「またたび」などの収穫体験、ビール工場にて製造実習、地域の産業祭や百貨店での販売実習などを行うことで、第1次産業から第3次産業までの全てに携わってきた。

企画にあたっては、学生自らが商品開発に従事するとともに、来訪者の年齢層・来訪目的などについてアンケート調査を実施することで、地産地消の取り組みだけでなく、県外やインバウンドなどの来県者に向けた観光地の賑わいづくりを行い、安芸太田町・美郷町の認知度向上を図った。原材料である「またたび」「緑茶」は美郷町から調達し、農家や地域の方々と協働にて調達を図り、製造は安芸太田町のビール工場で製品化を図ることで学生が両町の橋渡し役となって活動を行った。

<主な取組みと活動成果>

①事前調査・打合せ

- ・事前調査では、安芸太田町、島根県美郷町の両町で「お土産となるような特産品がほしい」「若い人に認知してもらい、人口減少対策につなげたい」という要望があることが分かった。
- ・当初原材料として予定していた粉末抹茶やトマトピューレが納期や予算の都合から使用できなくなり、継続した製造のための材料確保の大変さを知ることができた。
- ・現地に赴き工場や収穫場所の見学、生産物についての農家の方から講義を聴くことによって、地域の人々が感じている課題を肌で感じるすることができた。

②製造過程

- ・緑茶クラフトビールの色付けが予想通りに進まず、商品開発の困難さを実感した。

③PR 活動

- ・ラベル制作を一から行い、町の名前を PR するためにどのように表記するのか、どの世代をターゲットにし、どのようにデザインを制作するかをよく検討することで、アンケートでは高い評価を得られた。
- ・クラフトビールの PR を目的に出場した島根県美郷町の祭り「鴨山駕籠かき大会」では、地域の行事に積極的に参加することでその地域を盛り上げることに繋がった。

④販売活動

- ・三越百貨店での販売といった地域外活動により、広く流通させ特産品としての認知を広めることができた。
- ・6次産業化の視点で行った「観光地のにぎわいづくり」で安芸乃国酒造様や本郷 BASE 様などの様々な人々と協力をしながら活動を行い、交流の場がより広がった。

⑤試飲会でのアンケート調査

9月30日・10月1日に来夢とごうちで行われたグルメフェアにおいて試飲会を開き、アンケート調査を行った。

「またたび」と「緑茶」の両方の意見では、「すっきりして飲みやすい」「口当たりが良い」という意見が出た。一方、「またたび」では、「えぐみが気になる」「またたびの本来の味が分からない」、「緑茶」では、「緑茶の風味が少ない」「青臭さが残っているという」といった意見も頂くことができ、改善するための指標となった。